

2006 年度
(平成 18 年度)

事業報告書

自 2006 年 4 月 1 日
至 2007 年 3 月 31 日

財団法人日本映像国際振興協会

平成 18 年度事業実績報告書

I. 事業の状況

(1) 国際映画祭事業

- 名 称： 第 19 回東京国際映画祭
- 主 催： 財団法人日本映像国際振興協会（第 19 回東京国際映画祭実行委員会）
- 共 催： 経済産業省（マーケット部門）、東京都（コンペティション部門）
社団法人映画産業団体連合会（ニッポン・シネマ・クラシック部門）
- 期 間： 平成 18 年 10 月 21 日（土）～平成 18 年 10 月 29 日（日）
- 企 画： コンペティション、特別招待作品、アジアの風、日本映画・ある視点、
TIFFCOM 2006（アジア・パシフィック・エンタテインメント・マーケット）
秋葉原エンタまつり 2006、第 3 回文化庁映画週間
cyber TIFF（オフィシャルサイト）他
- 会 場： Bunkamura（渋谷区）／六本木ヒルズ（港区）をメイン会場とし、その他
都内劇場及び施設・ホールを使用
- 後 援： 経済産業省／外務省／総務省／文化庁／日本自転車振興会／
国際交流基金／渋谷区／港区／日本貿易振興機構／
社団法人日本経済団体連合会／東京商工会議所／
社団法人日本映画製作者連盟／社団法人映画産業団体連合会／
社団法人外国映画輸入配給協会／
モーション・ピクチャー・アソシエーション（MPA）／
全国興行生活衛生同業組合連合会／東京都興行生活衛生同業組合／
財団法人角川文化振興財団／財団法人デジタルコンテンツ協会／
財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団／
社団法人デジタルメディア協会
- 補助・助成： 日本自転車振興会（競輪公益資金）
- 支 援： 文化庁国内映画祭支援
- オフィシャルパートナー： 日本コカ・コーラ株式会社／
株式会社スカイパーフェクト・コミュニケーションズ／株式会社三共
- 協 賛： 東急グループ／森ビル株式会社／鹿島建設株式会社／
大和証券エスエムビーシー株式会社／トヨタ自動車株式会社／
株式会社読売新聞／全日本空輸株式会社／凸版印刷株式会社／
サッポロビール株式会社／株式会社角川グループホールディングス／
ぴあ株式会社／富士フイルム株式会社／松竹株式会社／東宝株式会社／
東映株式会社／角川映画株式会社／日活株式会社／TOHO シネマズ株式会社／
社団法人映画文化協会

協 力： NTT 東日本／NTT 西日本／株式会社テレビ朝日／
ゲッティ イメージズ ジャパン／株式会社 J-WAVE

【開 催 概 要】

第 19 回東京国際映画祭は平成 18 年 10 月 21 日（土）から 10 月 29 日（日）までの 9 日間、渋谷の Bunkamura と六本木ヒルズをメイン会場として、その他都内の会場を使用して開催された。今年で 3 回目を迎えたマーケット部門(TIFFCOM2006)は、六本木アカデミーヒルズで開催されたビジネスマーケット「アジア・パシフィック・エンタテインメント・マーケット」の中で、「Tokyo Project Gathering」等の 3 企画が行なわれた。また、一般参加者を対象に「秋葉原エンタまつり」が秋葉原駅前と電気街を中心に開催され、両会場とも大変な賑わいを見せた。

今年の映画祭の特徴は、昨年に引き続き経済産業省、文化庁、総務省、経団連などが積極的に東京国際映画祭の各分野に参加され、官民挙げての国際的行事となったことで、今後の方向を築く指針となったことにある。

今映画祭の企画総数は 29、動員数は 300,320 名（第 18 回 272,711 名）、上映した作品は 343 作品となった。

オープニングセレモニーは 10 月 21 日（土）にグランドハイアット東京（六本木ヒルズ）で開催された。角川チェアマンの開会宣言の後、特別参加された安倍晋三 内閣総理大臣が祝辞を述べられた。続いて国際審査委員及びコンペティション作品の紹介が行なわれ、この後、同ホテルの宴会場で歓迎レセプションが開催された。

オープニング作品は、クリント・イーストウッド監督の『父親たちの星条旗』で、出演俳優たちによる舞台挨拶もあり、盛況のうちに上映された。

クロージングセレモニー（授賞式）は、1,000 人を招待して 10 月 29 日（日）に Bunkamura オーチャードホールで開催された。当日は、甘利明 経済産業大臣の挨拶に続き、「黒澤明賞」「日本映画・ある視点」「コンペティション」各部門の授賞が発表された。

コンペティション部門の「東京サクラグランプリ」はフランス映画『OSS 117 カイロ、スパイの巣窟』に贈られた。

【主要上映企画】

（1）コンペティション（共催：東京都）

本映画祭の主要事業であるが、「明日の映画界を担う優れた才能の発掘と支援」に軸足を置きながら、芸術性と商業性のバランスのよいセレクションに重点を置き、2005 年 7 月以降に完成した 35 ミリ長編作品を対象に世界各国から公募し、応募作品の中から厳正な予備審査を経た 15 作品を期間中上映した。

各作品の上映後に招聘したゲスト（作品関係者）によるティーチンを行い、観客との交流の輪を広げた。

国際映画製作者連盟の規約に従い、映画プロデューサーを含む6名（内、日本人2名）で構成される国際審査委員会を設けて作品の審査を行い、東京サクラグランプリ、審査員特別賞、最優秀監督賞、最優秀主演女優賞、最優秀主演男優賞、最優秀芸術貢献賞の6賞が10月29日の閉会式会場で発表され、東京サクラグランプリには10万米ドル、審査員特別賞には2万米ドル、その他の賞に5千米ドルが賞金として贈られた。東京サクラグランプリには、東京都知事から賞状とトロフィー（麒麟像）が贈られた。

また、みなと委員会の協力により、一般客の投票による観客賞が設けられ、賞金1万米ドルが1作品に贈られた。

東京サクラグランプリ : 『OSS 117 カイロ、スパイの巣窟』

監督 ミシェル・ハザナヴィシウス

審査員特別賞 : 『十三の桐』監督 ルー・ユエ

最優秀監督賞 : ジョナサン・デイトン & ヴァレリー・ファリス

作品 『リトル・ミス・サンシャイン』

最優秀主演男優賞 : ロイ・デュピュイ 作品 『ロケット』

最優秀主演女優賞 : アビゲイル・ブレスリン 作品 『リトル・ミス・サンシャイン』

: ジン・ヤーチン 作品 『私たち』

最優秀芸術貢献賞 : 『父子』監督 パトリック・タム

上映数 : 15 作品 / 動員数 : 20,074 名

（2）特別招待作品

国内未公開の話題作品を22本上映した。招聘した作品ゲストによる舞台挨拶やイベント参加などで華やかに盛り上げ、東京国際映画祭のPRと観客動員に貢献した。

上映数 : 22 作品 / 動員数 : 17,096 名

（3）アジアの風

世界の映画界で、現在最も活気のあるアジア各国や地域で製作された優れた作品37本を選び上映した。

上映数 : 37 作品 / 動員数 : 24,203 名

（最優秀アジア映画賞）

アジア映画の発展を支援する目的で設けられる賞で、アジア地域で製作され、「アジアの風」部門で上映された作品の中から、アジア映画賞審査委員会により1作品が選ばれ、賞金1万米ドル（渋谷地区委員会）が贈られた。併せて、渋谷区から区長賞の「楯」が贈られた。

最優秀アジア映画賞 : 『父子』 監督 パトリック・タム

(4) 日本映画・ある視点

活況を増している日本映画の中から、ある角度に焦点を絞って、一般観客を始め、海外からのゲストにも新しい日本映画の躍動を紹介する企画で、個性に溢れた多様性のある作品13本を選定して上映した。

上映作品の中から、作品賞と特別賞を選び、賞状及び各100万円を贈り表彰した。

作品賞：『ミリキタニの猫』製作 吉川昌、監督 リンダ・ハッテンドーフ

特別賞：高良健吾 作品『M』の演技

上映数：13作品 / 動員数：6,053名

【協賛企画】 27企画（昨年度：24企画）

(1) 今村昌平追悼特集

カンヌ映画祭で2度の最優秀賞を受賞するなど、数々の偉業を成し遂げ、2006年5月に亡くなった今村昌平監督の全ての劇場用作品、テレビ用ドキュメンタリーなど26作品を上映した。

期 日：平成18年10月21日（土）～27日（金）

会 場：Bunkamura ル・シネマ1、2

上映数：26作品 / 動員数：2,535名

(2) 市川崑傑作選

黒澤明賞を受賞した市川崑監督の、豊かなフィルモグラフィの中から厳選した代表作を上映した。公開当時を懐かしむ観客だけでなく、若い映画ファンも駆けつけた。

期 日：平成18年10月21日（土）～27日（金）

会 場：Bunkamura ル・シネマ2

上映数：15作品 / 動員数：1,049名

(3) animecs TIFF 2006（共催：秋葉原エンタまつり実行委員会／東京アニメセンター）

「アニメ作家主義」をコンセプトとし、新作『パプリカ』を含む今敏監督全作品上映し、また、3Dやハイビジョンアニメの上映、野外上映会やシンポジウム開催等、多面的に展開をした。

期 日：平成18年10月21日（土）～29日（日）

会 場：TOHO シネマズ六本木ヒルズ1、2、六本木アカデミーヒルズ49、
六本木ヒルズアリーナ、東京アニメセンターアキバ3Dシアター ほか

上映数：14作品 / 動員数：3,125名

(4) 中国新鋭監督特集 (共催：中国国家広播電影電視総局)

政府が映画製作を積極的にサポートし始めたこと等を背景に、若い作家たちの活躍が盛んになっている中国の多様な企画の中から、新進気鋭の監督による 8 作品を上映した。

期 日：平成 18 年 10 月 21 日 (土)、22 日 (日)、24 日 (火)、25 日 (水)

会 場：東京都写真美術館

上映数：8 作品 / 動員数：334 名

(5) ニッポン・シネマ・クラシック (時代劇スペシャル～名優伝説～)

(共催：社団法人映画産業団体連合会)

雷蔵、阪妻、千恵蔵など、傑作時代劇には欠かせない名優を特集し、全作品英語字幕付、『実録・忠臣蔵』は弁士・楽団付で上映した。3 作品にトーク・ゲストが登壇した。

期 日：平成 18 年 10 月 22 日 (日)～25 日 (水)

会 場：Bunkamura ル・シネマ 1、シアターコクーン

上映数：7 作品 / 動員数：936 名

(6) 第 19 回東京国際女性映画祭 (主催：東京国際女性映画祭実行委員会)

今回のテーマは「家族」。少子化や高齢化社会の中で変貌してゆく家族についてのシンポジウム「21 世紀・家族の肖像」や、初の試みである託児付き上映も実施した。

共 催：東京都／財団法人日本映像国際振興協会

期 日：平成 18 年 10 月 22 日 (日)～26 日 (木)

会 場：東京ウィメンズプラザ

上映数：15 作品 / 動員数：4,550 名

(7) コリアン・シネマ・ウィーク 2006 ～様々な家族の絆～

(主催：駐日韓国大使館韓国文化院)

6 回目を迎えた今回は、映画祭メイン会場の Bunkamura シアターコクーンにて、独特の文化的特徴や影響を反映する「家族」が描かれた日本未公開の韓国映画 5 本を上映した。

期 日：平成 18 年 10 月 22 日 (日)～25 日 (水)

会 場：Bunkamura シアターコクーン

上映数：5 作品 / 動員数：1,652 名

(8) 「シネマ・ヴァイブレーション／音楽と映画の共振関係」

映画と音楽と「現在」とが直結する 2 作品を上映した。人気バンド GOING UNDER GROUND の曲をフィーチャーした作品上映に関連して同バンドのライブも行われた。

期 日：平成 18 年 10 月 25 日 (水)～26 日 (木)

会 場：TOHO シネマズ六本木ヒルズ 1 ほか

上映数：2 作品 / 動員数：245 名 (上映入場者)

(9) みなと上映会（共催：港区、みなと委員会）

港区の資金援助を受けて、港区内の商店会、自治会、町会で結成された東京国際映画祭みなと委員会との共催企画。昨年同様、家族向き映画のボイスオーバー上映（舞台上で声優が吹き替えをする）を実施した。

期 間：平成18年10月21日（土）～22日（日）

会 場：TOHO シネマズ六本木ヒルズ3

上映数：5作品 / 動員数：631名

(10) ショートショート フィルムフェスティバル&アジア 2006

受賞作品上映&ワークショップ

（主催：ショートショート アジア実行委員会）

2006年度本祭で受賞したハイクオリティー作品を一挙上映。上映作品監督も応援に駆けつけた。ワークショップには大勢のクリエイターが集まり、質疑応答が盛んに行われた。

共 催：東京都

期 日：平成18年10月26日（木）～29日（日）

会 場：東京都写真美術館

上映数：13作品 / 動員数：431名

(11) [メディアセクション]スカパー！×TIFF シネマJam！

（共催：株式会社スカイパーフェクト・コミュニケーションズ）

第19回東京国際映画祭をオフィシャルパートナーとして応援するスカパー！とのコラボレーション企画。トークショーやトークセッションを行い、映画人とファンの交流が生まれた。

期 日：平成18年10月21日（土）～23日（月）

会 場：TOHO シネマズ六本木ヒルズ5

上映数：13作品 / 動員数：970名

(12) 第2回 digital TIFF

昨年好評を博した先進的なデジタル技術を駆使した次世代映画祭の第二弾が開催された。最先端の映像表現、映像関連産業の独創的なアイデアを活用したショートクリップ、シンポジウムを展開した。

期 日：平成18年10月23日（月）

会 場：TOHO シネマズ六本木ヒルズ2

上映数：2作品 / 動員数：233名

(13) 東京ネットムービーフェスティバル 2006

昨年に引き続き、短編の作品を一般から公募し（応募 273 作品）、予選通過した 10 作品をネット上で公開。10 月 21 日からは配信も開始し、同時にブランド・コーポレート部門の授賞作品も発表。10 月 28 日の上映会・表彰式にてスクリーン上映し、一般部門のグランプリなど各賞が決定した。

期 日：平成 18 年 10 月 1 日（日）～28 日（土）

会 場：WEB SITE <http://www.netmovie-fes.jp> / テレビ朝日・多目的スペース UMU

上映数：13 作品 / 動員数：210 名

(14) 鈴木清順 48 本勝負 鈴木清順監督デビュー50 年記念特集上映（主催：日活株式会社）

鈴木清順監督デビュー50 周年を記念して特集企画を開催した。初日には監督と代表作「殺しの烙印」主演・真理アンヌさんのトークショーを開き、盛況のうちに終了した。

期 日：平成 18 年 10 月 21 日（土）～11 月 17 日（金）

会 場：シネマヴェーラ渋谷

上映数：48 作品 / 動員数：4,294 名

(15) 東京国際シネシティ フェスティバル 2006

（主催：東京国際シネシティ フェスティバル 2006 実行委員会）

新宿歌舞伎町にて多彩なイベントとエンタテインメント作品の上映を行った。デジタル・ショート・ムービーに特化した「デジ POP コンペティション」を一般公募により開催した。

期 日：平成 18 年 11 月 23 日（木）～26 日（日）

会 場：新宿ミラノ 1、シネシティ広場

上映数：38 作品 / 動員数：13,000 名

(16) 第 3 回文化庁映画週間 ―Here&There

映画を通じて地域で何ができるのか、国の枠を越えて何ができるのか。映画にまつわる、あらゆる立場の人々が集まる東京国際映画祭の中で各種事業を実施し、新たな展開を探った。

期 間：平成 18 年 10 月 21 日（土）～27 日（金）

会 場：六本木アカデミーヒルズ、Bunkamura ル・シネマ、シアターコクーン ほか

参加数：1,045 名

①「平成 18 年度（第 4 回）文化庁映画賞贈呈式」（主催：文化庁）

文化庁が映画芸術の向上とその発展に資するため、優れた文化記録映画に大賞（1 作品）及び優秀賞（2 作品）を贈呈し、映画作りを支えてきた功労者 5 名を顕彰した。

期 日：平成 18 年 10 月 21 日（土）

会 場：グランドハイアット東京

②「平成18年度（第4回）文化庁映画賞受賞記念上映会」（主催：文化庁）

文化庁映画賞・文化記録映画部門受賞の3作品を上映した。上映に際し監督、プロデューサー、出演者等関係者が登壇し、舞台挨拶やティーチインを行った。

期 日：平成18年10月26日（木）

会 場：Bunkamura ル・シネマ1

上映数：3作品

③「第3回世界映画人会議Ⅰ 映画人が伝える、映画との出会いと思い」

（主催：財団法人日本映像国際振興協会）

東京国際映画祭コンペティション作品、特別招待作品の監督等を招き、「映画人」としての映画との出会いや思い、明日を切り拓くためのメッセージを伺った。

共 催：文化庁／NPO 法人映像産業振興機構

期 日：平成18年10月23日（月）

会 場：Bunkamura シアターコクーン

④「第3回世界映画人会議Ⅱ 国境を越えた映画づくりとは～国際共同制作のいま～」

（主催：財団法人日本映像国際振興協会）

国際共同制作により表面化する課題を取り上げながら、文化的背景を踏まえた国境を越えた映画づくりの在り方について、映画制作者が事例を交えつつ議論を行った。

共 催：文化庁／NPO 法人映像産業振興機構

期 日：平成18年10月25日（水）

会 場：六本木アカデミーヒルズ49 スカイスタジオ

⑤「第3回文化庁全国映画祭コンベンション」（主催：文化庁）

第一部では各地の映画祭関係者が開催母体のあり方、予算の縮小などの課題や展望を討議した。第二部は映画祭オーガナイザー、マルコ・ミュレル氏に講演いただいた。

共 催：コミュニティシネマ支援センター／NPO 法人映像産業振興機構

期 日：平成18年10月24日（火）

会 場：六本木アカデミーヒルズ49 オーディトリウム

⑥「第4回文化庁全国フィルムコミッション・コンベンション」

（主催：財団法人日本映像国際振興協会）

「全国ロケーションデータベース」の紹介、アメリカ映画製作者が東京でロケをした状況と課題分析、地域とともに活動するFC事例を、会場からの発言を交え議論した。

共 催：文化庁／全国フィルム・コミッション連絡協議会／

NPO 法人映像産業振興機構

期 日：平成18年10月27日（金）

会 場：六本木アカデミーヒルズ49 オーディトリウム

(17)「シンポジウム：ハリウッドとの国際共同製作

～角川グループの海外戦略とハリウッド・ビジネス～

(主催：経済産業省／財団法人日本映像国際振興協会)

「着信アリ」のハリウッド・リメイク「One Missed Call」を題材に、ハリウッドの映画製作体制について、企画開発から完成作品のプロモーションに至る現場の状況が語られた。

期 日：平成18年10月23日(月)

会 場：六本木アカデミーヒルズ 49 スカイスタジオ

参加数：113名

(18)「J-Pitch プロデューサーズ・ワークショップ 2006@TIFFCOM」

(主催：経済産業省／財団法人日本映像国際振興協会)

国際共同製作に向け、招聘したアドバイザーによる個別ミーティング、ケーススタディーなどにより、海外でのマーケティング事情を学んだ。共同企画開発のディール締結もあった。

期 日：平成18年10月23日(月)～25日(水)

会 場：六本木アカデミーヒルズ 49 ステップルーム 1 ほか

参加数：22名(一般非公開)

(19)「アジア・ヨーロッパ映画学生ワークショップ」(主催：アジア欧州財団／

財団法人日本映像国際振興協会)

17カ国から参加した映画学校学生を対象とし、11人の講師との意見交換による短編映画企画開発、「ユニジャパン・レセプション」での世界各国の映画製作者との交流を行った。

期 日：平成18年10月22日(日)～26日(木)

会 場：東京芸術大学大学院映像研究科、NPO 法人映画美学校

参加数：40名

(20)「日中映画共同製作ワークショップ in 東京」(主催：経済産業省商務情報政策局／

財団法人日本映像国際振興協会)

日中の映画共同製作の促進のための通年事業として北京での第1回に続く東京での開催となった本ワークショップでは、日中プロデューサー相互の企画提案、意見交換を活発に行なった。

期 日：平成18年10月27日(金)

会 場：個別会場

参加数：50名(一般非公開)

(21)「世田谷映像文化シンポジウム：映像文化が地域を創る」

(主催：NPO 法人映像産業振興機構／世田谷区／財団法人せたがや文化財団)

「世田谷区文化及び芸術の振興に関する条例」の制定を記念して、山田洋次監督、安藤紘平早稲田大学教授を招いたシンポジウムを行い、地域社会と映像制作について考察した。

期 日：平成 18 年 10 月 23 日（月）

会 場：シアタートラム（三軒茶屋キャロットタワー）

参加数：178 名

(22)「第 19 回東京国際映画祭 海賊版対策セミナー」（主催：社団法人日本映画製作者連盟）

世界の抱える映画の海賊版問題について、その元凶である劇場での盗み撮り問題を中心にハリウッドの現状が報告され、また日本での盗撮への罰則の法制化の必要性が討議された。

期 日：平成 18 年 10 月 26 日（木）

会 場：六本木アカデミーヒルズ 49 オーディトリウム

参加数：164 名

(23)「SKIP シティクリエイターズ・フォーラム」（主催：埼玉県）

デジタル映像制作施設を整備し、クリエイターに様々な支援をおくる「彩の国ビジュアルプラザ」事業紹介、デジタルによる映画制作に関するトークセッション、交流会を開催した。

期 日：平成 18 年 10 月 25 日（水）

会 場：六本木アカデミーヒルズ 49 スカイスタジオ、ライブラリーカフェ

参加数：275 名

(24)「東京コンテンツマーケット 2006 (TCM)」

(主催：独立行政法人中小企業基盤整備機構関東支部)

TCM「コーディネーター」「サポーターズ」を組織し、ビジネスの一層の活性化を目指した。83 出展者が来場者と商談。アワード表彰、トークセッション、シンポジウム等も開催した。

共 催：経済産業省中小企業庁／関東経済産業局

期 日：平成 18 年 10 月 27 日（金）～28 日（土）

会 場：六本木アカデミーヒルズ 40

参加数：1,910 名（受付登録者数）

(25)「第 3 回東京アジア・ミュージックマーケット (TAM)」

(主催：財団法人音楽産業・文化振興財団)

カンファレンスでは海外展開を実際に手がけている方々を招き、アジア戦略における様々な課題の探求と提案があった。中国、韓国、台湾、マレーシアから 10 組がライブを行った。

期 日：平成 18 年 10 月 24 日（火）～25 日（水）

会 場：代官山「UNIT&UNICE」

参加数：1,200 名

(26) 「TIFFCOM2006～アジア・パシフィック・エンタテインメント・マーケット」

東京国際映画祭に併設されたビジネスマーケットとして、シンポジウム、セミナー等も開催し、コンテンツの国際取引から国際共同製作まで、ビジネスの海外展開をサポートした。

参加数： 14,676 名

① 「TIFFCOM (コンテンツマーケット)」

(主催：経済産業省／NP0 法人映像産業振興機構／日本映像振興株式会社)

3 回目を迎え、ゲーム・出版業界からの初出展を含む計 163 社 (国内：82 社、海外 81 社) の出展があった。セラー、バイヤー、プロデューサー等が 41 カ国から参加した。

共 催： 財団法人日本映像国際振興協会

期 日： 平成 18 年 10 月 23 日 (月) ～25 日 (水)

会 場： [展示会場] 六本木アカデミーヒルズ 40

[スクリーニング] 六本木アカデミーヒルズ 49／TOHO シネマズ六本木ヒルズ

② 「Tokyo Project Gathering」 (TPG)

(主催：経済産業省／NP0 法人映像産業振興機構／日本映像振興株式会社)

映画・テレビ・アニメなど映像の企画段階のプロジェクトについて、国際共同製作・共同出資を目指し、世界 14 カ国・約 90 企画の応募から選出された 28 企画が参加した。

共 催： 財団法人日本映像国際振興協会

期 日： [プレゼンテーション] 平成 18 年 10 月 22 日 (日)

[個別ミーティング] 平成 18 年 10 月 23 日 (月) ～25 日 (水)

会 場： [プレゼンテーション] 六本木アカデミーヒルズ 49 オーディトリウム

[個別ミーティング] 六本木アカデミーヒルズ 40 (TIFFCOM 会場内)

③ 「ロケーションマーケット」 (主催：経済産業省／NP0 法人映像産業振興機構／

日本映像振興株式会社)

映像制作者と地域ロケ受入側とのマッチングの場として、海外ロケ受入の実例、昭和の街並みを再現したロケ、企画段階からの連携取組などを紹介した。

期 日： 平成 18 年 10 月 25 日 (水)

会 場： 六本木アカデミーヒルズ 49 オーディトリウム

④ 「Seminar@TIFFCOM2006」 (主催：経済産業省／NP0 法人映像産業振興機構／

日本映像振興株式会社)

「世界の映画市場におけるアジアの台頭」をテーマに、世界で活躍する 3 人の映画プロデューサーを迎え、基調講演とパネルディスカッションが行われた。

期 日： 平成 18 年 10 月 24 日 (火)

会 場： 六本木アカデミーヒルズ 49 オーディトリウム

- ⑤「TIFFCOM2006 関連企画 日韓映像フォーラム」(主催：韓国文化コンテンツ振興院)
 韓国の有識者による基調講演及び映像プロデューサーによるパネルディスカッションを行い、日本と韓国の映像コンテンツの現状と世界マーケットへの進出を検証した。
 共 催： NPO 法人映像産業振興機構
 期 日： 平成 18 年 10 月 23 日 (月)
 会 場： 六本木アカデミーヒルズ 49 オーディトリウム
- ⑥「TIFFCOM2006 関連企画 AFI セミナー」(主催： American Film Institute／
 NPO 法人映像産業振興機構)
 AFI 副学長が「インディペンデント映画で歩むキャリア形成について」をテーマに、ハリウッドの映像作家の現状と成功のためのアドバイスを交えての講義を行った。
 期 日： 平成 18 年 10 月 24 日 (火)
 会 場： 六本木アカデミーヒルズ 49 スカイスタジオ
- ⑦「TIFFCOM2006 関連企画 ATP 賞テレビグランプリ 2006」
 (主催： 社団法人全日本テレビ番組製作社連盟)
 ATP 賞グランプリは東阪企画制作のドラマ『戦後 60 年特別企画「祖国」』が獲得。授賞式には総務副大臣、NHK 放送総局長、民放連理事等 600 名が出席した。
 期 日： 平成 18 年 10 月 24 日 (火)
 会 場： 六本木ヒルズ ハリウッドホール

(27) TIFF in AKIHABARA 秋葉原エンタまつり 2006

TOKYO ASIA-PACIFIC ENTERTAINMENT FESTIVAL

(主催： 秋葉原エンタまつり 2006 実行委員会)

アニメ、コミック、ゲームなど全てのエンタテインメントが集まる街“秋葉原”で様々な企画を展開。12 作品の上映のほか、製作発表会、ゲーム体験会、サイン会、抽選会を行った。

共 催： 財団法人日本映像国際振興協会／日本映像振興株式会社／

秋葉原イベント推進連絡協議会

期 間： 平成 18 年 10 月 21 日 (土) ～ 29 日 (日)

会 場： 秋葉原 UDX (2F・AKIBA_SQUARE、4F・東京アニメセンター 3D シアター)、

秋葉原地区ソフトショップ その他

参加数： 161,327 名

①「超アニメロ！！Presents animecs TIFF in AKIHABARA」

東京国際映画祭のアニメ上映企画に連動して、秋葉原の東京アニメセンター3D シアターで「animecs TIFF in AKIHABARA」が開催された。

期 日： 平成 18 年 10 月 21 日 (土) ～ 24 日 (火)、29 日 (日)

会 場： 秋葉原 UDX4F 東京アニメセンター3D シアター

上映数： 12 作品

【顕彰・助成】

- ① 東京国際映画祭のコンペティション部門における東京サクラグランプリ、その他優秀作品、監督、俳優に対する顕彰。
- ② アジアの優秀作品に対する顕彰。(最優秀アジア映画賞)
- ③ 世界の映画界で顕著な功績を挙げている個人に対する顕彰。(黒澤明賞)
黒澤明賞 受賞者 ミロス・フォアマン 監督(アメリカ)
市川崑 監督(日本)
- ④ フィルムライブラリー活動に対する助成として、国立近代美術館フィルムセンターへ製作者の承認を得て、優秀作品のプリントや映画資料の寄贈。

【その他】

(1) 能楽鑑賞会(渋谷区主催)

東京国際映画祭開催を歓迎する渋谷区主催の能楽鑑賞会が催された。今回も海外ゲストが区長の招待を受けて、招待を受けた区民と共に観世流の能楽を鑑賞した。冒頭、桑原敏武区長から、歓迎の挨拶がなされた。

主 催： 渋谷区

期 日： 10月23日(月)

会 場： 国立能楽堂(渋谷区千駄ヶ谷)

(2) インフォメーションブースの設置

六本木地区では六本木ヒルズウエストウォーク前、渋谷地区では JR 渋谷駅ハチ公前広場、東急百貨店本店前に設置し、上映作品の紹介、上映スケジュール案内、ゲスト情報提供など来場者へのサービス提供拠点として、ボランティアスタッフを中心に運営された。

(3) タブロイド紙の発行

映画祭の毎日の動きや、作品スケジュール、海外ゲストの動静などをレポートしたタブロイド紙を開会日から閉会日まで毎日約2万部発行し、六本木・渋谷各所にて無料で来場者に配布し、好評を博した。

(4) ボランティアスタッフの活動

映画祭公式 WEB サイトでボランティア募集を行った。約250人の応募の中から約190名が採用され、インフォメーション、来場ゲストアテンドなど多岐に渡る分野で活躍し、映画祭運営を支えてくれた。

(5) 映画祭入場料金の設定（協賛企画、提携企画の一部上映部門を除く）

特別招待作品部門	1,800 円
コンペティション部門、アジアの風部門	1,500 円
日本映画・ある視点	1,500 円
シネマ・ヴァイブレーション／音楽と映画の共振関係	1,200 円
ニッポン・シネマ・クラシック、中国新鋭監督特集	1,000 円
みなと上映会、今村昌平追悼特集、市川崑傑作選、animecsTIFF2006	1,000 円
コリアン・シネマ・ウィーク 2006	900 円

(6) TIFF 公式グッズの販売と価格

公式プログラムをはじめ映画祭オリジナルグッズを制作し販売した。

公式プログラム	1,500 円
公式プログラム（アジアの風）	1,400 円
コラボレーションTシャツ	2,500 円
【日本映画】切手（2 種）	1,000 円
B1 ポスター（2 種）	800 円
クリアファイル	320 円
ボールペン	500 円
コットントートバッグ	1,000 円
ネックストラップ	800 円
携帯電話ストラップ	500 円

(7) 広報活動と街の演出・装飾

① 一般広報活動

○新聞広告	朝日、毎日、読売
○劇場 CF（予告篇）	首都圏主要劇場
○パブリシティ	
新聞・雑誌	一般紙、スポーツ全紙、映画雑誌、情報誌ほか
テレビ・ラジオ	NHK、民放全局、BS・CS 各局、その他
○宣伝素材	映画祭公式プログラム、映画祭チラシ（日・英） ポスター（B 全 2 種）、映画祭公式記録

② 映画祭公式サイトの開設 <www.tiff-jp.net>

TIFF オフィシャル Web サイト「cyber TIFF on internet」の運営

上映ラインナップやスケジュールなどの基本情報に加え、上映作品を様々な側面から紹介するレビュー、コラム、レポートを掲載。会期中は来場ゲストへのインタビューや舞台挨拶、記者会見の動画コンテンツを配信。またレッドカーペット、オープニングセレモニーにおいては、ストーリーミングによる生中継を実施した。

- ピーク時の総ページビュー 620,000pv
- 総コンテンツ数 400 以上

③ 映像配信の活用

TIFF オフィシャル高品質サイト「cyber TIFF on FLET'S」では、NTT 東日本、NTT 西日本の提供する「フレッツ・スクウェア」の特設サイトにて、3Mbps、1Mbps を中心とした高品質動画配信を実施した。また、TIFF オフィシャル放送「cyber TIFF on Movie Plus」では、ジュピターエンタテインメントの提供する「ムービープラス」において、cyber TIFF から配信されるハイビジョン映像を利用したオープニングレッドカーペットの生放送を実施。あわせて、ムービープラスを通じてスカチャン HV (cs880 チャンネル) にも配信し、家電量販店などの店頭にも配信を行った。さらに、オープニングレッドカーペットの模様は、誠志堂ワールド、テレビ朝日、森ビルにご協力頂き、各ビジョンにライブ配信を実施。エリアとの一体感ある情報発信を実現した。

④ 渋谷地区委員会の活動

映画祭渋谷地区委員会、渋谷区、警察署、消防署、委員会加盟各商店街、大型店などの協力により華やかに街の演出と装飾を実施した。

- 街路灯フラッグの掲出 10 月 16 日（月）～29 日（日）
道玄坂商店街ほか 10 商店街通り
- 大型店壁面懸垂幕 10 月 16 日（月）～29 日（日）
東急本店・東横店、シブヤ西武、高島屋、ほか
- 街頭大型モニター 10 月 16 日（月）～29 日（日）
映画祭開催告知 CF の放映 中央街
- 交通広告の掲出 10 月 27 日（金）～29 日（日）
JR 山手線、東急全線、京王両線、東京メトロ銀座線
計 5,970 枚
- ハチ公像のタスキ掛け、渋谷駅地下鉄入口タイトル掲出
10 月 16 日（月）～29 日（日）
- インフォメーションブース設置
東急東横店ハチ公側 10 月 21 日（土）～29 日（日）
東急本店正面口 10 月 21 日（土）～29 日（日）
- 委員会の開催 7 月 10 日（月）、9 月 27 日（水）、11 月 21 日（火）

⑤ みなと委員会の活動

港区、麻布警察署、麻布消防署、六本木ヒルズ自治会、区内各町会、商店街連合会で結成された東京国際映画祭支援の委員会。

○みなと上映会 家族を対象とした上映会の開催（TOHO シネマズ六本木ヒルズ）

10月21日（土）～22日（日）

○観客賞 観客が自由に選ぶコンペ作品の賞（1万米ドル）

○街頭フラッグの掲出

けやき坂、麻布十番商店街、六本木商店街

10月6日（金）～29日（日）

273枚

○クリーンアップ・プロジェクト

六本木会場周辺の街頭清掃作業

武井 港区長、角川チェアマンほか 300名

10月14日（土） 午前9時開始

○みなと区民まつり

映画祭みなと委員会活動のPR

10月7日（土）～8日（日）

○オリジナルパンフレットの作成

155,000部

区内全戸新聞折込、主要駅、公共施設での配布

⑥ 森ビル内の広報活動

地下鉄通路	地下鉄コルトン、特設ポスターボード
メトロハット	特設幕、ポスターボード ほか
66 プラザ	水景、ポスターボード
ウエストウォーク	コルトン、バナー他
けやき坂コンプレック	吊り下げバナー
ヒルサイド	壁面バナーほか

（2）日本映画国際振興支援事業

〔国際共同製作支援事業〕

（1）日本の映画製作者を対象にした国際共同製作支援「J-Pitch」

経済産業省「映像コンテンツ国際共同製作基盤整備事業」の業務委託を受けて、平成18年度から新事業、「J-Pitch」として実施した。事業内容は以下のとおりである。なお、初年度の実績としては、J-Pitch 事業に参加した全34企画の内、7企画が海外の共同製作パートナーを得ることができた。

① 海外ネットワーキング・ワークショップ

海外市場を視野に入れた映画製作を推進するため、海外との共同製作映画の企画を持つ日本の映画プロデューサーに対して、国際ネットワークを広げ海外のパートナーとのマッチング機会を提供した。

ネットワーキングの場としては以下の国際映画祭にて開催されている企画マーケットへの参加のため、現地へのプロデューサーの派遣事業を実施した。

企画のプレゼンテーション、海外映画製作者とのマッチングを実施した国内外の国際映画祭は下記のとおりである。

- ・ カヌ国際映画祭（5月）「プロデューサーズ・ネットワーク」 参加 10名
- ・ プサン国際映画祭（10月）「プサン・プロモーション・プラン（PPP）」 参加 1名
- ・ 東京国際映画祭（10月）「トウキョー・プロジェクト・ギャザリング（TPG）」
参加 10名
- ・ サンダンス映画祭（1月） 参加 3名
- ・ ベルリン国際映画祭（2月）「コ・プロダクション・マーケット」 参加 11名
- ・ 香港国際映画祭（3月）「香港アジア・フィルム・ファイナンス・フォーラム（HAF）」
参加 8名

② 企画開発ワークショップ

各国の国際映画祭企画マーケットにおいて、映画企画をプレゼンテーションするために必要な素材や情報、知識、ノウハウを日本の映画プロデューサーに提供するための「企画開発ワークショップ」を、年間を通して実施した。参加プロデューサーは17人であった。

企画開発ワークショップの概要：

- ・ 第1回ワークショップ「ピッチングの実際とストーリー開発」（8月）
- ・ 第2回ワークショップ「マーケティングとストーリー開発」（10月）
- ・ 第3回ワークショップ「アジアのマーケット、法務、ファイナンス」（1月）

③ 日中映画共同製作ワークショップ

中国の映画製作者との共同製作を目指した交流は、上記国際映画祭の機会を活用したワークショップとは別に、中国国家広播電影電視総局、中国電影合作制片公司との協力の下に単独で実施された。日中映画共同製作ワークショップの概要は以下のとおりである。

日中映画共同製作ワークショップの概要：

- ・ 第1回ワークショップ 北京にて8月3日に実施（日本側14社、中国側29社）
- ・ 第2回ワークショップ 東京にて10月27日に実施
（東京国際映画祭に合わせて開催、日本側17社、中国側12社）
- ・ 第3回ワークショップ 北京にて3月27日に実施（日本側6社、中国側6社）

このワークショップ開催を通じて、中国側との交流が進み、本財団と中国電影合作制片公司との間で、情報交換、共同製作の推進を目的とした「日中映画協力覚書」の締結を平成19年度に行なうことになった（「調査研究事業・国際協力事業の推進」を参照）。

④ 国際的なマッチングを促進するためのデータベース開発

FACE-TO-FACE のネットワーキング、マッチングを目的とした上記の各ワークショップと平行してウェブ上でのネットワーキング、マッチングを可能とするためのサイトの開発とデータベース構築を開始した。J-Pitch サイトの実際の立上げは平成 19 年度の事業となるが、平成 18 年度は以下の事業を実施した。

- ・ ウェブ上でのマッチングを実現するための実証実験

デジタルハリウッドの協力の下に、映像クリエイターとプロデューサーとのウェブを通じてのマッチングについてシステムの実験を実施した。

- ・ 日本映画の作品情報及び産業情報のデータベース開発

現行のユニジャパン・ウェブサイトに掲載されている日本映画データベースを改良し、データ総数の増大、入力作業の簡略化、使いやすさを目的とした新しいシステムを開発、平成 19 年 10 月を目標に新しいデータベース・サイトを立ち上げる計画である。

- ・ 世界主要国の映画産業情報の収集（アメリカ、韓国、フランスにて調査を実施）

各国における共同製作、海外ライセンスに関する契約内容の調査を、エンタテインメント・ロイヤーズ・ネットワークの協力によって実施した。

【映画祭展示支援事業】

（１）主要映画祭での「ジャパンパビリオン」「ジャパンプース」の出展

文化庁「日本映画海外映画祭出品等事業」の業務委託を受けて、世界の主要映画祭において日本映画の海外セールス拠点としての「ジャパンパビリオン」や「ジャパンプース」を出展した。この事業は、経済産業省、文化庁、現地日本大使館、国際交流基金、日本貿易振興機構等と本財団の協力による「オールジャパン」体制によって運営されており、平成 18 年度の拠点展開は以下の通りである。

① カンヌ映画祭「ジャパンパビリオン」（平成 18 年 5 月 17 日～26 日）

実施内容：

- ・ 国際村内に日本映画情報&交流センターとして「ジャパンパビリオン」、見本市会場内にセールス拠点として「ジャパンプース」（セールス会社 8 社が共同利用）を設置
- ・ 市内ホテルにて「ジャパンプレセプション」を実施

実施体制：経済産業省、文化庁、日本貿易振興機構、財団法人日本映像国際振興協会

② トロント映画祭「アジアデスク」（平成 18 年 9 月 7 日～16 日）

実施内容：

- ・ トロント映画祭インダストリーセンター内に、韓国映画振興委員会（KOFIC）と共同で「アジアデスク」を出展、日本からの公式上映 7 作品のセールス活動に協力
- ・ 国際交流基金トロント日本文化センターにて、国際交流基金、日本貿易振興機構、本財団、KOFIC の共催で「アジアレセプション」を開催

実施体制：文化庁、財団法人日本映像国際振興協会

③ プサン映画祭「ジャパンプース」(平成 18 年 10 月 15 日～18 日)

実施内容：

- ・ 見本市会場内に「ジャパンプース」を出展（セールス会社 5 社が共同利用）
- ・ 市内ホテルにて「ジャパンレセプション」を、映像産業振興機構の協力を得て開催

実施体制：文化庁、財団法人日本映像国際振興協会

④ ベルリン映画祭「ジャパンプース」(平成 19 年 2 月 8 日～18 日)

実施内容：

- ・ 見本市会場内に「ジャパンプース」を出展（セールス会社 12 社が共同利用）
- ・ 映画祭会場ソニーセンターにて「ジャパンレセプション」を実施

実施体制： 経済産業省、文化庁、在ドイツ日本大使館、日本貿易振興機構、
財団法人日本映像国際振興協会

⑤ 香港映画祭「ジャパンパビリオン」(平成 19 年 3 月 20 日～23 日)

実施内容：

- ・ 見本市会場内に「ジャパンパビリオン」を出展（セールス会社 6 社が共同利用）
- ・ 映像産業振興機構が主催する TIFFCOM のプロモーションイベント「ジャパンプレミア」に参加

実施体制：経済産業省、文化庁、日本貿易振興機構、財団法人日本映像国際振興協会

[映画祭出品支援事業]

(1) 海外映画祭・映画見本市への出品支援「日本映画海外展開助成」

上記事業と同じく、文化庁「日本映画海外映画祭出品等事業」の業務委託を受けて、海外の映画祭・映画見本市に参加する日本映画、映画製作者への経費助成を行なっている。

助成内容：

- ・ 外国語字幕制作費の助成
- ・ 渡航費の助成
- ・ 宣伝制作物の助成

助成枠：

- ・ 映画祭・映画見本市参加への一般枠
- ・ 3 大映画祭長編コンペ部門参加作品への優先枠（カンヌ、ベネチア、ベルリン）
- ・ 若手映画製作者への特別枠

平成 18 年度助成実績：

- ・ 総採択数 101 件（平成 17 年度実績 66 件）
- ・ 総申請件数 246 件（同 247 件）
- ・ 助成総額 37,332,098 円（同 33,810,603 円）

(3) 調査・研究事業

日本の映画製作者に対して海外の映画産業情報を提供。

[国際協力事業の推進]

(1) 平成 18 年度の国際協力事業、国際ネットワーク事業は以下の通りである。

① 日仏映画協力覚書

平成 15 年に締結されたフランス国立映画センター (CNC) との「日仏映画協力覚書」に基づき、以下の日仏交流会を開催した。

- ・ カヌエ国際映画祭 (5 月)
日仏映画プロデューサー交流会 (J-Pitch 事業の一環として実施)
- ・ 第 19 回東京国際映画祭 (10 月) 「国際学生映画ワークショップ」(後述)
- ・ フランス映画祭 2007 (3 月) 「国際共同製作」及び「海賊版対策」に関する交流会

② アジア映画産業ネットワーク (AFIN)

同じく平成 15 年に締結された「アジア映画産業ネットワーク (AFIN)」に基づき、トロント映画祭において、韓国 (映画振興委員会・KOFIC) と共催でアジア映画共同デスクの出展を実施した。

③ 日中映画協力覚書

中国電影合作制片公司との間で、「日中映画協力覚書」締結に向けて協議を重ね、平成 19 年 6 月に開催される上海国際映画祭にて調印の運びとなった。協力の内容は、相互の映画産業情報の交換、日中共同製作の推進である。

(2) 「ユニジャパン通信」の発行

当財団では、映画祭情報を必要とする映画製作者、各社セールス担当者に「ユニジャパン通信」を隔週で発行してメールで直接送信している (送信リストは 242 件)。映画祭開催情報、エントリー情報の他に過去の日本映画の出品状況・受賞実績なども掲載して、映画祭の傾向がわかるようにしている。またこの通信記事は本財団のウェブサイトにも転載し、より広く情報提供を行なっている。

「ユニジャパン通信」でエントリー情報を掲載した海外映画祭の数は以下の表の通りである。

開催地域	掲載映画祭数
ヨーロッパ	59 (56)
南北アメリカ	36 (44)
中近東アフリカ	4 (2)
アジア太平洋	35 (20)
合 計	134 件 (122 件)

※ () 内の数字は、平成 17 年度のもの。

(3) 国際学生映画ワークショップの開催「アジア・ヨーロッパ映画学生ワークショップ」

第 19 回東京国際映画祭開催に合わせて、シンガポールに本拠を置く「アジア・ヨーロッパ財団 (Asia-Europe Foundation)」との共催で、アジアとヨーロッパ 16 カ国の映画学校の学生を対象にした映画製作ワークショップを実施した。このワークショップには、東京芸術大学大学院映像研究科、映画美学校の協力の下に会場の提供を受けた。参加した学生 (20 名) の出身国は以下のとおりである。

ヨーロッパ：アイルランド、イタリア、チェコ、デンマーク、ハンガリー、フランス、ベルギー、ポーランド

ア ジ ア：インドネシア、韓国、カンボジア、シンガポール、中国、タイ、フィリピン、日本 (4 名)

なお、東京国際映画祭においては、TIFFCOM、TPG のプレゼンテーションを見学、コンペ作品の上映やユニジャパン・レセプションに参加した。

(4) 啓蒙・普及事業

【日本映画の海外への情報発信】

(1) 日本映画ウェブサイト「www.uni-japan.org」の運営

日本自転車振興会の補助を受け、本財団の自主事業として平成 15 年に開始した。平成 18 年度は東京国際映画祭開催費の補助と一括して申請を行なったが、日本映画ウェブサイト制作にかかる部分の決算総額は、7,507,863 円で、補助金額はその 2 分の 1 である。

内容：

海外向け日本映画年鑑「Japanese Film」のデータを共有しているが、当ウェブサイトではデータ量をさらに拡大し、紹介する 2006 年公開の日本映画掲載本数は、アニメーション映画、記録映画を含めて 245 本となった(「Japanese Film 2007」の掲載本数は 69 本)。

広報：

ウェブサイトの認知をより海外に広げるために、カンヌ映画祭、ベルリン映画祭にて発行された「VARIETY」誌、「Screen International」誌に広告を掲載した。

（２）海外向け日本映画年鑑「Japanese Film 2007」の出版

文化庁「芸術団体人材育成支援事業」の業務委託となっている刊行物「Japanese Film 2007」の編集発行と配布を行なった（3000部発行）。掲載内容は以下の通りである。

掲載作品：

2006年1月～12月に劇場公開された日本映画の内、主要な作品約70本を選んで日本語・英語併記で紹介する。

掲載作品の選考は河原畑寧委員長主宰の審査委員会による。選考基準は以下の3点。

- ・ 興行収入ランキング上位作品
- ・ 国内での主要な映画賞受賞作品
- ・ 海外での主要な映画祭招待作品

2006年日本映画産業データ：

日本映画製作者連盟、外国映画輸入配給協会が発表する映画産業データ（興行収入10億円以上の日本映画、映画封切本数、入場者数、平均入場料金、興行収入、スクリーン数、外国映画封切本数）を英訳して掲載。

日本映画産業リスト：

項 目	掲載社数
映画・映像関連団体	31 (31)
映画製作会社	105 (92)
アニメーション製作会社	28 (24)
映画配給会社	69 (59)
現像所・映画機材他	18 (19)
フィルム・コミッション	99 (86)
映画祭（国内）	26 (27)
映画学校	22 (17)
ファンド	6 (5)

* 掲載の承諾が確認できた団体、企業、フィルム・コミッション、学校等を掲載。

* （ ）内の数字は、平成17年度のもの。

（３）海外向け新作日本映画カタログ「New Cinema from Japan」の出版

国際交流基金との共同事業として平成15年度より出版を開始した刊行物、「New Cinema from Japan」の編集発行と国内外への配布を行なった。「Japanese Film」が前年に公開された日本映画を紹介する年鑑として出版されるのに対して、「New Cinema from Japan」は未公開作を含む新作を紹介する日本映画カタログであり、作品掲載は有料である（1作品、5万円）。

発行：年 2 回、各 4000 部発行

- ・ 2006 年秋号（9 月発行） 54 作品を紹介
- ・ 2007 年春号（2 月発行） 42 作品を紹介

配布：

- ・ カンヌ、ベネチア、トロント、プサン、東京、アメリカン・フィルム・マーケット（AFM）、ベルリン、香港など、本財団、日本貿易振興機構が参加する主要映画祭及び見本市・在外公館、及び国際交流基金の海外事務所

以 上

2006 年度
(平成 18 年度)

決算報告書

自 2006 年 4 月 1 日
至 2007 年 3 月 31 日

財団法人日本映像国際振興協会

収支計算書

(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
① 基本財産運用収入	2,000	1,999	1	
基本財産利息収入	2,000	1,999	1	
② 会 費 収 入	84,000,000	85,500,000	△ 1,500,000	
賛助会員会費収入	84,000,000	85,500,000	△ 1,500,000	
③ 事 業 収 入	776,800,000	817,055,285	△ 40,255,285	
(1) 業務受託料収入	448,800,000	453,305,686	△ 4,505,686	
a) 経 済 産 業 省	350,000,000	344,970,389	5,029,611	
b) 文 化 庁	85,800,000	105,216,797	△ 19,416,797	※1
c) 港 区	13,000,000	3,118,500	9,881,500	※2
(2) 入場料収入	75,000,000	54,899,270	20,100,730	※3
(3) 企画スポンサー収入	243,000,000	278,768,775	△ 35,768,775	※4
(4) その他の収入	10,000,000	30,081,554	△ 20,081,554	※5
④ 補助金・分担金 収入	105,906,000	136,381,540	△ 30,475,540	
(1) 日本自転車振興会	41,986,000	41,224,038	761,962	
(2) 文 化 庁	30,000,000	52,500,000	△ 22,500,000	※6
(3) 国際交流基金	2,820,000	11,557,502	△ 8,737,502	※7
(4) 東 京 都	30,000,000	30,000,000	0	
(5) 渋谷 区	1,100,000	1,100,000	0	
⑤ 寄 付 金 収 入	127,000,000	110,000,000	17,000,000	
企業・文化団体グループ	127,000,000	110,000,000	17,000,000	※8
⑥ 負 担 金 収 入	0	15,925,418	△ 15,925,418	
その他の収入	0	15,925,418	△ 15,925,418	※9
⑦ 雑 収 入	601,000	867,803	△ 266,803	
(1) 運用財産利息収入	1,000	156,341	△ 155,341	
(2) そ の 他 の 収 入	600,000	711,462	△ 111,462	
事業活動収入 計	1,094,309,000	1,165,732,045	△ 71,423,045	

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
2. 事業活動支出				
① 事業費支出	1,081,330,000	1,074,691,881	6,638,119	
(1) 国際映画祭事業費	782,770,000	789,198,627	△ 6,428,627	
a) コンペティション費	77,231,000	75,097,538	2,133,462	※10
b) 特別招待作品費	6,260,000	2,519,353	3,740,647	※11
c) アジアの風費	60,380,000	63,366,851	△ 2,986,851	※12
d) 日本映画・ある視点費	8,350,000	9,399,846	△ 1,049,846	
e) 開催費	593,749,000	595,588,225	△ 1,839,225	※13
f) アニメックスTIFP費	3,000,000	1,605,283	1,394,717	
g) ニッポン・シネマ・クラシック費	3,000,000	2,954,534	45,466	
h) 顕彰助成事業費	30,800,000	33,403,104	△ 2,603,104	※14
i) その他新企画費	0	5,263,893	△ 5,263,893	※15
(2) 国際振興支援事業費	277,620,000	269,496,442	8,123,558	
a) 映画祭展示支援事業費	45,860,000	46,603,380	△ 743,380	
b) 映画祭出品支援事業費	44,550,000	44,484,873	65,127	
c) 国際共同製作支援事業	187,210,000	178,408,189	8,801,811	※16
(3) 啓蒙普及事業費	13,720,000	15,684,558	△ 1,964,558	
(4) 調査・研究事業費	7,220,000	312,254	6,907,746	※17
② 管理費支出	61,320,000	58,977,500	2,342,500	
事業活動支出 計	1,142,650,000	1,133,669,381	8,980,619	
事業活動収支差額	△ 48,341,000	32,062,664	△ 80,403,664	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
映画祭事業積立預金取崩収入	0	60,036,653	△ 60,036,653	※18
投資活動収入 計	0	60,036,653	△ 60,036,653	
2. 投資活動支出				
退職給付引当預金支出	85,000	85,500	△ 500	
映画祭事業積立預金支出	0	60,036,653	△ 60,036,653	※19
投資活動支出 計	85,000	60,122,153	△ 60,037,153	
投資活動収支差額	△ 85,000	△ 85,500	500	

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
Ⅲ 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
借入金収入	150,000,000	120,000,000	30,000,000	
財務活動収入 計	150,000,000	120,000,000	30,000,000	
2. 財務活動支出				
借入金返済支出	150,000,000	90,000,000	60,000,000	
財務活動支出 計	150,000,000	90,000,000	60,000,000	
財務活動収支差額	0	30,000,000	△ 30,000,000	
Ⅳ 予備費支出	0	0	0	
当期収支差額	△ 48,426,000	61,977,164	△ 110,403,164	
前期繰越収支差額	53,790,000	156,026,975	△ 102,236,975	
次期繰越収支差額	5,364,000	218,004,139	△ 212,640,139	

(注) 1 借入限度額 450,000千円

2 債務負担額 なし

<備考>

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| ※1 受託業務増(予算外) | ※11 スタッフ効率活用による経費削減 |
| ※2 みなと委員会より別途収入あり | ※12 上映本数増 |
| ※3 特別招待作品複数回上映不成就 | ※13 会場2ヶ所全面使用による経費増 |
| ※4 オフィシャルスポンサーの増 | ※14 トロフィー等製作代(予算外) |
| ※5 特殊切手販売(予算外) | ※15 新企画分(予算外) |
| ※6 補助金増額(予算外) | ※16 新事業であるための目算違い |
| ※7 アジアの風・マレーシア特集共催(予算外) | ※17 新企画提案不採択 |
| ※8 予定会社減 | ※18 つなぎ資金としての利用 |
| ※9 セミナー等会場利用負担分(予算外) | ※19 つなぎ資金としての利用 |
| ※10 招待費減 | |

事業活動支出内訳

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	増 減	備 考
I 事業活動支出				
1. 事業費支出	1,081,330,000	1,074,691,881	6,638,119	
(1) 国際映画祭事業費	782,770,000	789,198,627	△ 6,428,627	
① コンペティション費	77,231,000	75,097,538	2,133,462	
会議費	1,600,000	975,145	624,855	
旅費交通費	25,000,000	23,963,118	1,036,882	
通信運搬費	400,000	1,596,305	△ 1,196,305	
消耗品費	281,000	63,399	217,601	
印刷製本費	0	29,001	△ 29,001	
賃借料	700,000	1,576,740	△ 876,740	
保険料	0	13,000	△ 13,000	
図書新聞費	0	45,086	△ 45,086	
謝金	3,700,000	2,565,000	1,135,000	
委託費	45,100,000	42,668,927	2,431,073	
諸手数料	0	25,645	△ 25,645	
租税公課	0	33,910	△ 33,910	
雑費	450,000	1,542,262	△ 1,092,262	
② 特別招待作品費	6,260,000	2,519,353	3,740,647	
会議費	100,000	26,000	74,000	
旅費交通費	200,000	134,590	65,410	
通信運搬費	50,000	33,501	16,499	
消耗品費	10,000	1,165	8,835	
賃借料	0	138,987	△ 138,987	
委託費	5,900,000	2,185,110	3,714,890	
③ アジアの風費	60,380,000	63,366,851	△ 2,986,851	
会議費	500,000	995,969	△ 495,969	
旅費交通費	9,050,000	10,275,274	△ 1,225,274	
通信運搬費	300,000	2,019,739	△ 1,719,739	
消耗品費	30,000	4,496	25,504	
印刷製本費	500,000	0	500,000	
賃借料	700,000	1,743,066	△ 1,043,066	
保険料	0	9,210	△ 9,210	
図書新聞費	0	25,164	△ 25,164	
謝金	0	600,000	△ 600,000	
委託費	49,300,000	47,563,568	1,736,432	
諸手数料	0	36,995	△ 36,995	
租税公課	0	1,100	△ 1,100	
雑費	0	92,270	△ 92,270	
④ 日本映画・ある視点費	8,350,000	9,399,846	△ 1,049,846	
会議費	100,000	100,865	△ 865	
旅費交通費	100,000	559,830	△ 459,830	
通信運搬費	50,000	31,513	18,487	
消耗品費	0	5,313	△ 5,313	
賃借料	300,000	193,016	106,984	
謝金	0	300,000	△ 300,000	
委託費	7,800,000	8,191,165	△ 391,165	
雑費	0	18,144	△ 18,144	

科 目	予算額	決算額	増 減	備 考
⑤ 開 催 費	593,749,000	595,588,225	△ 1,839,225	
給 与 手 当	0	3,195,000		
臨 時 雇 用 賃 金	0	1,641,000		
法 定 福 利 費	0	371,686		
会 議 費	1,418,000	1,261,921	156,079	
旅 費 交 通 費	12,510,000	19,366,607	△ 6,856,607	
通 信 運 搬 費	4,175,000	13,109,538	△ 8,934,538	
什 器 備 品 費	1,350,000	275,517	1,074,483	
消 耗 品 費	650,000	764,282	△ 114,282	
印 刷 製 本 費	8,955,000	5,856,663	3,098,337	
光 熱 水 料 費	250,000	65,535	184,465	
賃 借 料	111,518,000	81,499,346	30,018,654	
保 険 料	2,200,000	1,683,769	516,231	
図 書 新 聞 費	0	58,660	△ 58,660	
消 耗 什 器 備 品 費	0	1,634,405	△ 1,634,405	
謝 金	0	306,367	△ 306,367	
委 託 費	412,843,000	443,936,029	△ 31,093,029	
租 税 公 課	0	101,400	△ 101,400	
雑 費	30,350,000	15,693,472	14,656,528	
諸 手 数 料	7,530,000	4,767,028	2,762,972	
⑥ アニメックスTIFF	3,000,000	1,605,283	1,394,717	
賃 借 料	0	796,783	△ 796,783	
委 託 費	3,000,000	808,500	2,191,500	
⑦ ニッポン・シネマ・クラシック費	3,000,000	2,954,534	45,466	
委 託 費	3,000,000	2,954,534	45,466	
⑧ 顕彰助成事業費	30,800,000	33,403,104	△ 2,603,104	
通 信 運 搬 費	0	8,280	△ 8,280	
印 刷 製 本 費	0	174,258	△ 174,258	
謝 金	0	200,000	△ 200,000	
委 託 費	0	1,365,000	△ 1,365,000	
諸 手 数 料	0	44,866	△ 44,866	
コンペティション賞金	15,100,000	16,628,700	△ 1,528,700	
アジア映画賞賞金	1,200,000	1,189,000	11,000	
黒澤明賞賞金	12,000,000	11,703,000	297,000	
そ の 他 賞	2,500,000	2,090,000	410,000	
⑨ その他新企画	0	5,263,893	△ 5,263,893	
会 議 費	0	101,208		
旅 費 交 通 費	0	119,540	△ 119,540	
通 信 運 搬 費	0	106,067	△ 106,067	
消 耗 品 費	0	27,240	△ 27,240	
印 刷 製 本 費	0	101,000	△ 101,000	
賃 借 料	0	2,079,661	△ 2,079,661	
謝 金	0	266,664	△ 266,664	
委 託 費	0	2,456,148	△ 2,456,148	
諸 手 数 料	0	630	△ 630	
雑 費	0	5,735	△ 5,735	

科 目	予算額	決算額	増 減	備 考
(2) 国際振興支援事業	277,620,000	269,496,442	8,123,558	
① 映画祭展示支援事業費	45,860,000	46,603,380	△ 743,380	
給 与 手 当	3,200,000	4,080,000	△ 880,000	
法 定 福 利 費	600,000	550,691	49,309	
会 議 費	120,000	291,514	△ 171,514	
旅 費 交 通 費	5,200,000	6,816,242	△ 1,616,242	
通 信 運 搬 費	120,000	1,846,432	△ 1,726,432	
什 器 備 品 費	240,000	0	240,000	
消 耗 品 費	120,000	151,600	△ 31,600	
印 刷 製 本 費	300,000	65,400	234,600	
賃 借 料	11,000,000	9,487,080	1,512,920	
保 險 料	300,000	29,320	270,680	
謝 金	0	140,000	△ 140,000	
租 税 公 課	120,000	60,400	59,600	
委 託 費	24,240,000	21,698,972	2,541,028	
雑 費	240,000	1,155,854	△ 915,854	
諸 手 数 料	60,000	229,875	△ 169,875	
② 映画祭出品支援事業費	44,550,000	44,484,873	65,127	
会 議 費	30,000	12,670	17,330	
旅 費 交 通 費	30,000	177,390	△ 147,390	
通 信 運 搬 費	60,000	14,674	45,326	
什 器 備 品 費	30,000	0	30,000	
消 耗 品 費	60,000	7,609	52,391	
印 刷 製 本 費	300,000	36,750	263,250	
賃 借 料	240,000	10,000	230,000	
謝 金	420,000	210,000	210,000	
租 税 公 課	120,000	0	120,000	
委 託 費	9,600,000	6,625,566	2,974,434	
雑 費	30,000	259	29,741	
諸 手 数 料	30,000	57,855	△ 27,855	
字 幕 補 助 費	33,600,000	37,332,100	△ 3,732,100	
③ 国際共同製作支援事業費	187,210,000	178,408,189	8,801,811	
会 議 費	720,000	1,789,331	△ 1,069,331	
旅 費 交 通 費	28,510,000	22,731,915	5,778,085	
通 信 運 搬 費	1,600,000	589,364	1,010,636	
什 器 備 品 費	1,440,000	158,904	1,281,096	
消 耗 品 費	480,000	164,869	315,131	
図 書 新 聞 費	360,000	930,086	△ 570,086	
印 刷 製 本 費	15,320,000	1,774,832	13,545,168	
賃 借 料	12,100,000	6,268,473	5,831,527	
保 險 料	600,000	80,740	519,260	
消耗什器備品費	0	186,817	△ 186,817	
謝 金	29,500,000	5,823,965	23,676,035	
租 税 公 課	240,000	0	240,000	
委 託 費	95,890,000	133,382,802	△ 37,492,802	
雑 費	360,000	3,385,408	△ 3,025,408	
諸 手 数 料	90,000	467,580	△ 377,580	
海 外 誌 掲 載 費	0	673,103	△ 673,103	

科 目	予算額	決算額	増 減	備 考
(3) 啓蒙普及事業費	13,720,000	15,684,558	△ 1,964,558	
会 議 費	60,000	0	60,000	
旅 費 交 通 費	120,000	34,400	85,600	
通 信 運 搬 費	60,000	22,305	37,695	
什 器 備 品 費	120,000	0	120,000	
消 耗 品 費	60,000	545	59,455	
印 刷 製 本 費	2,400,000	2,958,900	△ 558,900	
賃 借 料	360,000	585,711	△ 225,711	
謝 金	120,000	22,222	97,778	
租 税 公 課	60,000	0	60,000	
委 託 費	10,270,000	11,197,861	△ 927,861	
雑 費	60,000	606	59,394	
諸 手 数 料	30,000	22,008	7,992	
海 外 誌 掲 載 費	0	840,000	△ 840,000	
(4) 調査・研究事業費	7,220,000	312,254	6,907,746	
会 議 費	30,000	3,390	26,610	
旅 費 交 通 費	1,940,000	264,860	1,675,140	
通 信 運 搬 費	30,000	13,444	16,556	
什 器 備 品 費	30,000	0	30,000	
消 耗 品 費	30,000	0	30,000	
図 書 新 聞 費	80,000	0	80,000	
印 刷 製 本 費	960,000	0	960,000	
賃 借 料	600,000	0	600,000	
謝 金	600,000	0	600,000	
租 税 公 課	60,000	0	60,000	
委 託 費	2,800,000	17,325	2,782,675	
雑 費	30,000	0	30,000	
諸 手 数 料	30,000	13,235	16,765	
2. 管 理 費	61,320,000	58,977,500	2,342,500	
給 与 手 当	7,700,000	9,914,000	△ 2,214,000	
臨 時 雇 用 賃 金	2,400,000	1,056,666	1,343,334	
法 定 福 利 費	1,370,000	2,135,411	△ 765,411	
福 利 厚 生 費	500,000	310,930	189,070	
会 議 費	900,000	805,668	94,332	
旅 費 交 通 費	900,000	1,402,812	△ 502,812	
通 信 運 搬 費	2,000,000	1,741,924	258,076	
什 器 備 品 費	500,000	29,100	470,900	
消 耗 什 器 備 品 費	0	219,850	△ 219,850	
消 耗 品 費	1,400,000	869,355	530,645	
図 書 新 聞 費	400,000	338,141	61,859	
印 刷 製 本 費	450,000	404,550	45,450	
光 熱 水 料 費	1,500,000	1,617,940	△ 117,940	
賃 借 料	18,000,000	17,641,228	358,772	
役 務 費	3,100,000	2,100,000	1,000,000	
租 税 公 課	200,000	606,800	△ 406,800	
委 託 費	18,000,000	15,657,954	2,342,046	
支 払 利 息	400,000	560,135	△ 160,135	
雑 費	1,000,000	807,711	192,289	
諸 手 数 料	600,000	757,325	△ 157,325	
事業活動支出計	1,142,650,000	1,133,669,381	8,980,619	

収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、未収会費、未収入金、前払金、仮払金、立替金、未払金及び預り金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記 2 に記載しておりである。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資金及び負債の内訳

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	54,332,378	125,176,488
未収会費	18,000,000	4,000,000
未収入金	180,143,538	203,267,953
前払金	1,296,344	2,285,271
仮払金	140,000	0
立替金	0	92,641
合 計	253,912,260	334,822,353
未払金	96,478,489	114,799,033
預り金	1,406,796	2,019,181
合 計	97,885,285	116,818,214
次期繰越収支差額	156,026,975	218,004,139

委 託 費 内 訳

(単位:円)

科 目	金 額	発 注 先
1. 事 業 費	725,001,507	
(1) 国際映画祭事業費	552,078,981	
コンペティション費	42,618,927	上映関係費(イマジカ、アテネフランセ 他) 通関字幕製作費(日本シネアーツ) 業務契約料(審査員、通訳 他)
特別招待作品費	2,185,110	業務契約料(司会、通訳 他)
アジアの風費	47,563,568	字幕製作費(アテネフランセ、日本シネアーツ 他) 通関費(日本シネアーツ) 業務契約料(司会、通訳 他)
日本映画・ある視点費	8,191,165	業務契約料(字幕製作費 他)
アニメックス・TIFF 費	808,500	業務契約料(司会料 他)
ニッポン・シネマクラシック費	2,954,534	分担金(映団連)
開催費	443,936,029	広報宣伝費(東宝アド、エヌ・ティ・ティ・ビズリンク、電通、 東京タカラ商会、バカザバッカ) 運営費(本多芸能スポーツ、シンティ警備、サンデザイン研究所、 東急百貨店サービス、東急レクリエーション、ビッグショット) 業務契約料(翻訳料 他)
顕彰助成事業費	1,365,000	業務契約料(和光)
その他新企画	2,456,148	通関費(日本シネアーツ) 業務契約料(通訳 他)
(2) 国際振興支援事業費	161,707,340	業務契約料(通訳、イマジカ、ICSコンベンションデザイン、 野村総合研究所、スキップシティ 他) 会場運営費(ビー・ウィズ)
(3) 調査・研究事業費	17,325	業務契約料(翻訳料)
(4) 啓蒙普及事業費	11,197,861	業務契約料(匠プロデュース、メディアネット 他)
2. 管 理 費	15,657,954	業務契約料(東映エージェンシー、浜村会計事務所 他) 清掃費(東京不動産管理)

貸借対照表

平成19年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	125,176,488		125,176,488
未収会費	4,000,000		4,000,000
未収入金	203,267,953		203,267,953
貯蔵品	465,600		465,600
前払金	2,285,271		2,285,271
仮払金	0		0
立替金	92,641		92,641
流動資産合計	335,287,953		335,287,953
2. 固定資産			
(1)基本財産			
定期預金	10,000,000		10,000,000
基本財産合計	10,000,000		10,000,000
(2)特定資産			
退職給付引当預金	756,500		756,500
映画祭事業積立預金	85,000,000		85,000,000
特定資産合計	85,756,500		85,756,500
(3)その他固定資産			
什器備品	376,464		376,464
電話加入権	180,200		180,200
ソフトウェア	291,834		291,834
敷金	5,320,800		5,320,800
その他の固定資産合計	6,169,298		6,169,298
固定資産合計	101,925,798		101,925,798
資産合計	437,213,751		437,213,751
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	114,799,033		114,799,033
預り金	2,019,181		2,019,181
短期借入金	120,000,000		120,000,000
流動負債合計	236,818,214		236,818,214
2. 固定負債			
退職給付引当金	756,500		756,500
固定負債合計	756,500		756,500
負債合計	237,574,714		237,574,714
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	0		0
指定正味財産合計	0		0
2. 一般正味財産	199,639,037		199,639,037
(うち 基本財産への充当額)	(10,000,000)		(10,000,000)
(うち 特定資産への充当額)	(85,756,500)		(85,756,500)
一般正味財産合計	199,639,037		199,639,037
正味財産合計	199,639,037		199,639,037
負債及び正味財産合計	437,213,751		437,213,751

正味財産増減計算書

平成18年4月1日から平成19年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1)経常収益			
基本財産運用収入	1,999		1,999
基本財産運用収入	1,999		1,999
会費収入	85,500,000		85,500,000
賛助会員会費収入	85,500,000		85,500,000
事業収入	817,055,285		817,055,285
業務受託料収入	453,305,686		453,305,686
経済産業省	344,970,389		344,970,389
文化庁	105,216,797		105,216,797
港区	3,118,500		3,118,500
入場料収入	54,899,270		54,899,270
企画スポンサー収入	278,768,775		278,768,775
その他の収入	30,081,554		30,081,554
補助金・分担金収入	136,381,540		136,381,540
日本自転車振興会	41,224,038		41,224,038
文化庁	52,500,000		52,500,000
国際交流基金	11,557,502		11,557,502
東京都	30,000,000		30,000,000
渋谷区	1,100,000		1,100,000
寄付金収入	110,000,000		110,000,000
負担金収入	15,925,418		15,925,418
雑収入	867,803		867,803
運用財産利息収入	156,341		156,341
その他の収入	711,462		711,462
経常収益計	1,165,732,045		1,165,732,045

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
(2)経常費用			
国際映画祭事業	788,549,427		788,549,427
コンペティション費	75,097,538		75,097,538
特別招待作品費	2,519,353		2,519,353
アジアの風費	63,366,851		63,366,851
日本映画・ある視点費	9,399,846		9,399,846
開催費	594,939,025		594,939,025
アニメックス・TIFP費	1,605,283		1,605,283
ニッポン・シネマ・クラシック費	2,954,534		2,954,534
顕彰助成事業費	33,403,104		33,403,104
市川崑傑作選 他新企画費	5,263,893		5,263,893
国際振興支援事業費	269,362,042		269,362,042
映画祭展示支援事業費	46,603,380		46,603,380
映画祭出品支援事業費	44,484,873		44,484,873
国際共同製作支援事業費	178,273,789		178,273,789
調査・研究事業費	312,254		312,254
啓蒙普及事業費	15,684,558		15,684,558
管理費	59,230,890		59,230,890
経常費用計	1,133,139,171		1,133,139,171
当期経常増減額	32,592,874		32,592,874
2. 経常外増減の部			
(1)経常外収益			
経常外収益計	0		0
(2)経常外費用			
経常外費用計	0		0
当期経常外増減額	0		0
当期一般正味財産増減額	32,592,874		32,592,874
一般正味財産期首残高	167,046,163		167,046,163
一般正味財産期末残高	199,639,037		199,639,037
II 指定正味財産増減の部			0
当期指定正味財産増減額	0		0
指定正味財産期首残高	0		0
指定正味財産期末残高	0		0
III 正味財産期末残高	199,639,037		199,639,037

経常費用内訳

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減	備 考
経常費用				
国際映画祭事業費	788,549,427		788,549,427	
コンペティション費	75,097,538		75,097,538	
会議費	975,145		975,145	
旅費交通費	23,963,118		23,963,118	
通信運搬費	1,596,305		1,596,305	
什器備品費	0		0	
消耗品費	63,399		63,399	
印刷製本費	29,001		29,001	
賃借料	1,576,740		1,576,740	
保険料	13,000		13,000	
図書新聞費	45,086		45,086	
謝金	2,565,000		2,565,000	
委託費	42,668,927		42,668,927	
諸手数料	25,645		25,645	
租税公課	33,910		33,910	
雑費	1,542,262		1,542,262	
特別招待作品費	2,519,353		2,519,353	
会議費	26,000		26,000	
旅費交通費	134,590		134,590	
通信運搬費	33,501		33,501	
消耗品費	1,165		1,165	
賃借料	138,987		138,987	
謝金	0		0	
諸手数料	0		0	
委託費	2,185,110		2,185,110	
アジアの風費	63,366,851		63,366,851	
会議費	995,969		995,969	
旅費交通費	10,275,274		10,275,274	
通信運搬費	2,019,739		2,019,739	
消耗品費	4,496		4,496	
印刷製本費	0		0	
賃借料	1,743,066		1,743,066	
保険料	9,210		9,210	
図書新聞費	25,164		25,164	
謝金	600,000		600,000	
委託費	47,563,568		47,563,568	
諸手数料	36,995		36,995	
租税公課	1,100		1,100	
雑費	92,270		92,270	
日本映画・ある視点費	9,399,846		9,399,846	
会議費	100,865		100,865	
旅費交通費	559,830		559,830	
通信運搬費	31,513		31,513	
消耗品費	5,313		5,313	
賃借料	193,016		193,016	
謝金	300,000		300,000	
委託費	8,191,165		8,191,165	
諸手数料	0		0	
雑費	18,144		18,144	

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減	備 考
開 催 費	594,939,025		594,939,025	
給 与 手 当	3,195,000		3,195,000	
臨 時 雇 用 賃 金	1,641,000		1,641,000	
法 定 福 利 費	371,686		371,686	
会 議 費	1,261,921		1,261,921	
旅 費 交 通 費	19,366,607		19,366,607	
通 信 運 搬 費	12,643,938		12,643,938	
什 器 備 品 費	91,917		91,917	
消 耗 品 費	764,282		764,282	
印 刷 製 本 費	5,856,663		5,856,663	
光 熱 水 料 費	65,535		65,535	
賃 借 料	81,499,346		81,499,346	
保 険 料	1,683,769		1,683,769	
図 書 新 聞 費	58,660		58,660	
消 耗 什 器 備 品 費	1,634,405		1,634,405	
謝 金	306,367		306,367	
委 託 費	443,936,029		443,936,029	
租 税 公 課	101,400		101,400	
支 払 利 息	0		0	
雑 費	15,693,472		15,693,472	
諸 手 数 料	4,767,028		4,767,028	
アニメックスTIFF費	1,605,283		1,605,283	
賃 借 料	796,783		796,783	
委 託 費	808,500		808,500	
ニッポン・シネマ・クラシック費	2,954,534		2,954,534	
委 託 費	2,954,534		2,954,534	
諸 手 数 料	0		0	
顕 彰 助 成 事 業 費	33,403,104		33,403,104	
通 信 運 搬 費	8,280		8,280	
印 刷 製 本 費	174,258		174,258	
謝 金	200,000		200,000	
委 託 費	1,365,000		1,365,000	
諸 手 数 料	44,866		44,866	
コンペティション賞金	16,628,700		16,628,700	
アジア映画賞賞金	1,189,000		1,189,000	
黒澤明賞賞金	11,703,000		11,703,000	
そ の 他 賞	2,090,000		2,090,000	
そ の 他 新 企 画	5,263,893		5,263,893	
会 議 費	101,208		101,208	
旅 費 交 通 費	119,540		119,540	
通 信 運 搬 費	106,067		106,067	
消 耗 品 費	27,240		27,240	
印 刷 製 本 費	101,000		101,000	
賃 借 料	2,079,661		2,079,661	
謝 金	266,664		266,664	
委 託 費	2,456,148		2,456,148	
諸 手 数 料	630		630	
雑 費	5,735		5,735	

科 目	当年度	前年度	増 減	備 考
国際振興支援事業	269,362,042		269,362,042	
映画祭展示支援事業費	46,603,380		46,603,380	
給 与 手 当	4,080,000		4,080,000	
法 定 福 利 費	550,691		550,691	
会 議 費	291,514		291,514	
旅 費 交 通 費	6,816,242		6,816,242	
通 信 運 搬 費	1,846,432		1,846,432	
什 器 備 品 費	0		0	
消 耗 品 費	151,600		151,600	
印 刷 製 本 費	65,400		65,400	
賃 借 料	9,487,080		9,487,080	
保 険 料	29,320		29,320	
図 書 新 聞 費	0		0	
謝 金	140,000		140,000	
租 税 公 課	60,400		60,400	
委 託 費	21,698,972		21,698,972	
雑 費	1,155,854		1,155,854	
諸 手 数 料	229,875		229,875	
映画祭出品支援事業費	44,484,873		44,484,873	
給 与 手 当	0		0	
法 定 福 利 費	0		0	
会 議 費	12,670		12,670	
旅 費 交 通 費	177,390		177,390	
通 信 運 搬 費	14,674		14,674	
什 器 備 品 費	0		0	
消 耗 品 費	7,609		7,609	
印 刷 製 本 費	36,750		36,750	
賃 借 料	10,000		10,000	
保 険 料	0		0	
謝 金	210,000		210,000	
租 税 公 課	0		0	
委 託 費	6,625,566		6,625,566	
雑 費	259		259	
諸 手 数 料	57,855		57,855	
字 幕 補 助 費	37,332,100		37,332,100	
国際共同製作支援事業費	178,273,789		178,273,789	
会 議 費	1,789,331		1,789,331	
旅 費 交 通 費	22,731,915		22,731,915	
通 信 運 搬 費	589,364		589,364	
什 器 備 品 費	24,504		24,504	
消 耗 品 費	164,869		164,869	
図 書 新 聞 費	930,086		930,086	
印 刷 製 本 費	1,774,832		1,774,832	
賃 借 料	6,268,473		6,268,473	
保 険 料	80,740		80,740	
消 耗 什 器 備 品 費	186,817		186,817	
謝 金	5,823,965		5,823,965	
租 税 公 課	0		0	
委 託 費	133,382,802		133,382,802	
雑 費	3,385,408		3,385,408	
諸 手 数 料	467,580		467,580	
海 外 誌 掲 載 費	673,103		673,103	

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減	備 考
啓蒙普及事業費	15,684,558		15,684,558	
会議費	0		0	
旅費交通費	34,400		34,400	
通信運搬費	22,305		22,305	
什器備品費	0		0	
消耗品費	545		545	
印刷製本費	2,958,900		2,958,900	
賃借料	585,711		585,711	
謝金	22,222		22,222	
租税公課	0		0	
委託費	11,197,861		11,197,861	
雑費	606		606	
諸手数料	22,008		22,008	
海外誌掲載費	840,000		840,000	
調査・研究事業費	312,254		312,254	
会議費	3,390		3,390	
旅費交通費	264,860		264,860	
通信運搬費	13,444		13,444	
什器備品費	0		0	
消耗品費	0		0	
図書新聞費	0		0	
印刷製本費	0		0	
賃借料	0		0	
保険料	0		0	
謝金	0		0	
租税公課	0		0	
委託費	17,325		17,325	
雑費	0		0	
諸手数料	13,235		13,235	
管理費	59,230,890		59,230,890	
給与手当	9,914,000		9,914,000	
臨時雇用賃金	1,056,666		1,056,666	
法定福利費	2,135,411		2,135,411	
福利厚生費	310,930		310,930	
退職給付費用	85,500		85,500	
会議費	805,668		805,668	
旅費交通費	1,402,812		1,402,812	
通信運搬費	1,741,924		1,741,924	
減価償却費	167,890		167,890	
什器備品費	29,100		29,100	
消耗什器備品費	219,850		219,850	
消耗品費	869,355		869,355	
図書新聞費	338,141		338,141	
印刷製本費	404,550		404,550	
光熱水料費	1,617,940		1,617,940	
賃借料	17,641,228		17,641,228	
役務費	2,100,000		2,100,000	
租税公課	606,800		606,800	
委託費	15,657,954		15,657,954	
支払利息	560,135		560,135	
雑費	807,711		807,711	
諸手数料	757,325		757,325	
經常費用計	1,133,139,171		1,133,139,171	

財産目録

平成19年3月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	125,176,488		
現金手許有高	169,758		
普通預金	124,996,559		
三菱東京UFJ銀行京橋支店(本口)	112,445,842		
三菱東京UFJ銀行京橋支店(チケット口)	86,248		
三菱東京UFJ銀行京橋支店(自転車口)	76,124		
三菱東京UFJ銀行	806		
三井住友銀行(本口)	12,352,958		
三井住友銀行(現金)	3,631		
三井住友銀行(自転車口)	6,449		
みずほ銀行	24,501		
外貨預金 三菱東京UFJ銀行京橋支店	10,171		
未収会費 賛助会費	4,000,000		
未収入金 日本自転車振興会他	203,267,953		
貯蔵品	465,600		
前払金	2,285,271		
立替金	92,641		
流動資産合計		335,287,953	
2. 固定資産			
(1)基本財産 三菱東京UFJ銀行京橋支店 定期預金	10,000,000		
基本財産合計	10,000,000		
(2)特定資産 退職給付引当預金	756,500		
映画祭事業積立預金	85,000,000		
特定資産合計	85,756,500		
(3)その他固定資産			
什器備品	376,464		
電話加入権	180,200		
ソフトウェア	291,834		
敷金	5,320,800		
その他の固定資産合計	6,169,298		
固定資産合計		101,925,798	
資産合計			437,213,751
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	114,799,033		
預り金	2,019,181		
短期借入金 三菱東京UFJ銀行 京橋支店	120,000,000		
流動負債合計		236,818,214	
2. 固定負債			
退職給付引当金	756,500		
固定負債合計		756,500	
負債合計			237,574,714
正味財産合計			199,639,037

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品……最終仕入原価法によっている。

(2) 固定資産の減価償却の方法

什器備品……定額法によっている。

ソフトウェア……定額法によっている。

(3) 引当金の計上基準

退職給付引当金……職員の退職給付に備えるため、当期末における自己都合要支給額に相当する金額を計上している。

(4) リース取引の処理方法

リース物件の所有者が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リースについては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

(5) 消費税等の会計処理

税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	10,000,000	0	0	10,000,000
小 計	10,000,000	0	0	10,000,000
特定資産				
退職給付引当預金	671,000	85,500	0	756,500
映画祭事業積立預金	85,000,000	60,036,653	60,036,653	85,000,000
小 計	85,671,000	60,122,153	60,036,653	85,756,500
合 計	95,671,000	70,122,153	70,036,653	95,756,500

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	10,000,000	—	(10,000,000)	—
小 計	10,000,000	—	(10,000,000)	—
特定資産				
退職給付引当預金	756,500	—	(756,500)	(756,500)
映画祭事業積立預金	85,000,000	—	(85,000,000)	—
小 計	85,756,500	—	(85,756,500)	(756,500)
合 計	95,756,500	—	(95,756,500)	(756,500)

4. 担保に供している資産

該当なし。

5. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取 得 価 額	減価償却累計額	当期末残高
什 器 備 品	1,172,208	795,744	376,464
ソ フ ト ウ ェ ア	405,255	113,421	291,834
合 計	1,577,463	909,165	668,298

(注) 直接法により減価償却を行っているものである。

6. 保証債務等の偶発債務

該当なし。

7. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末 残高	当期増加額	当期減少額	当期末 残高	貸借対照表上 の記載区分
補助金・分担金						
・ 公益事業振興補助金	日本自転車 振興会	0	41,224,038	41,224,038	0	—
・ 国内映画祭支援	文化庁	0	52,500,000	52,500,000	0	—
・ 東京国際映画祭 コンペティション 部門共催	東京都	0	30,000,000	30,000,000	0	—
・ 東京国際映画祭 アジアの風共催	渋谷区	0	1,100,000	1,100,000	0	—
・ 日本映画情報英文カ タログ共同発行	国際交流基金	0	1,600,000	1,600,000	0	—
・ 東京国際映画祭 アジアの風 マレーシア特集	国際交流基金	0	9,957,502	9,957,502	0	—
合 計		0	136,381,540	136,381,540	0	

8. 関連当事者との取引の内容

該当なし。

9. 重要な後発事象

該当なし。